

# 仏教保育

8

Aug.

伝えよう <sup>いのち</sup> 生命の尊さ ほどけの心



朝のコーラス



祝辞  
加藤昌康先生



東仏保  
安藤文隆先生



日仏保  
緑谷一雄先生

## 「ほどけの慈悲をいただく」

「第84回夏期仏教保育講習会」

平成 28 年 7 月 21 日・22 日 / 大本山増上寺・光摂殿



ピアノ伴奏  
森田真帆先生

歌唱指導  
吉水知草先生



### ■ 開講式

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は 7 月 21 日・22 日の両日、大本山増上寺・光摂殿において東京仏教保育協会（安藤文隆委員長）のご協力のもと、標記講習会を開催しました。  
大暑を翌日に控えた初日も朝から霧雨が舞うように飛び交い、二日目も小雨が降ったり止んだりの涼しいお天気でした。会場には全国から 140 余名の保育者が参加し、講義では真剣な眼差しでメモを取り、実技では幼児のようにはしやぎながらも講師の指導に沿って正確に動く姿が頼もしく感じました。  
恒例の「朝のコーラス」では、お馴染みの吉水知草先生（公財・全国青少年教化協議会研究員）のご指導で始まりました。ピアノ伴奏もお馴染みの森田真帆先生です。「楽しい歌は楽しそうに、悲しい歌は悲しむような表情で歌うと情感が伝わります」吉水先生はこのように話されてから『四弘誓願、法の深山、追悼の歌』など指導されました。

はじめに緑谷理事長の主導で三帰依文斉唱。次いで物故者への黙とうが行われたあと、同理事長から「涼しい朝でしたが生憎の小雨。ご苦労さまです。二日間ではありませんが、仏教保育ならではの内容でプログラムは構成されています。仏教保育者として誇りを持ってしっかりと勉強してください」と挨拶し、東京仏教保育協会の先生方によるご奉仕に対し感謝の言葉を述べられました。  
続いて、安藤委員長から「先ほど皆さんで斉唱した『三帰依文』の言葉、お釈迦さまはどういうお心で唱えていたのでしょうか。ここを広く持つ、慈悲を頂く、そんな思いで唱えておられたように思います。皆さんも心をおおらかにして、慈悲を

頂く、そんな気持ちで頑張ってください」と、激励されました。次いで、加藤昌康先生から「参議院選挙も終わり、皆さんそれぞれ思う人を選ばれたこと

でしょう。きょうは涼しいが、これからは夏本番です。暑さにめげず子どもたちのためにも頑張ってください」とお祝辞を頂きました。

## 「仏教保育の話」

緑谷一雄先生  
(公社・日本仏教保育協会理事長／みどり幼稚園理事長)



谷先生は壇上でこう前置きされてから講義に移られました。

「仏教保育の三綱領は、日本仏教保育協会が掲げる保育の三本柱です。『慈心不殺』は慈しみを持って自分を活かすこと。

「最近の若い人たちが近ごろ考えていること、それは『五輪』と『年金』のことだそうです。オリンピックはともかくとして、『年金』のことを今から考えている、私たちの若い頃は考えたこともないことです。世相を映しているようで、身につままされています。日本仏教保育協会が設立された昭和の初期、世界的な恐慌が吹き荒れたと言います。若い方はその再来を予感しているのでしょうか。そうならないことを祈りつつ、私の話を進めたいと思います。」

「仏道成就」は仏が教える道を歩くこと。「正業精進」は相手の良いところを見つけてお釈迦さまの言葉を子どもに優しく伝えることが大切です。更に優しく言えば、「慈心不殺」は「明るく」、「仏道成就」は「正しく」、「正業精進」は「仲良く」と子どもたちに伝えてください。つまり仏教保育とは、お釈迦様の言葉を優しく伝えることだと思えます。」こう説かれてから、お釈迦様の言葉をいくつか取り上げながら分かり易く説明し、仏教保育の狙いなどに触れて講義をされました。

## 「世界に弘まる仏教の魅力

「日常に活かせる教えと実践」  
ケネス田中先生  
(武蔵野大学教授／武蔵野大学仏教文化研究所所長)



仏教は今、変化しています。欧米でも仏教は人気を呼んでおり、アメリカではすでに3000万人の人々が宗教的・

精神的にも仏教に強い影響を受けているという状況です。正に、仏教は宗教の一つとしてアメリカに浸透している、そんな状況です。映画俳優のリチャード・ギア、ゴルフアーのタイガー・ウッズは仏教徒として知られています。但し、「信じる宗教」ではなく、「目覚める宗教」であるということが原因の一つ。何故か、それは「ブツダ」とは「目

覚める人」だから。また、葬式という儀式はなく、あくまでも「心を癒してくれる」教えとして存在しているということですから、田中先生はこのような概況を述べてから、レジメに沿って仏教への改宗者の特徴、例えば「女性の指導者が多いこと」、「科学と矛盾していない」として、アインシュタインの見解を例に出して説明し、アメリカ社会における宗教の重要性、宗教情勢の変化に触れていきました。そして、最近ではアメリカ人の大半は日本の箸を使って麺類を上手に食べるなど、語ってくださいました。

## 「『絵本』という出会い」

ひろかわさえこ先生  
(絵本作家)



私は昭和28年生まれ。小樽の出身です。当時は、あまり良い絵本

はありませんでした。印象に残っているのは「ちびくろサンボ」という絵本。スコットランドのヘレン・バナーマンさんが自分の子どものために書いた手作りの絵本です。あと、宮沢賢治の『雪わたり』くらいでしょうか。叔父が画家だったので、小さい頃から「絵」は身近に感じて育ちました。ア

ルバイトしながら美大に通い、絵本を作ることを夢みて勉強しました。ひろかわ先生は子どもの中から夢見た絵本作家への道を語り、「絵本は何のためにあるのか。知識のため？ 想像力を養うため？ もちろんそれもあります。しかし一番大切なことは、子どもが幸せな時間を過ごすためにあると思うのです。」と力強くこう述べてから、ご自分の作品（絵本）を読み聞かせてくださいました。受講生たちも大きくうなずきながら聞き入っていました。



# 「保育を楽しもう」

田澤里喜先生

(玉川大学教育学部准教授／東一の江幼稚園園長)

田澤先生はきびきびした動きと爽やかな笑顔で「保育者が楽しい気持ちで保育をすることは大切です。その「楽しい」を深めると「保育の質を高める」とにつながります。体を動かしながら、みなさんと一緒に考えましょう」と述べてから、「じゃんけん遊び」から実技に入りました。受講生たちは大興奮です。最後に先生は、「遊びはシンプルの方が楽しいのです。」こう締め括りました。



# 「豊山保育の根底にあるもの」

大澤聖隆先生

(真言宗豊山派保育連合会理事長／世尊院幼稚園名誉園長)



「真言宗は18の派に分化されていますが、保育の根底にあるものは仏さまの教えです。その

仏さまの教えを子どもに分かり易く伝え、次代を正しく担えるように育てることが目的です。しかし、「人は人に拠って自分を育てる」と言います。「霧の中を行けば覚えざるに衣温る。よき人に近づけばよき人になるなり」、これは道元禅師の言葉です。平つたく言えば『朱に交われば赤くなる』ということです。善き出会いは『人を変えま

# 「パネルシアターの世界」

高橋 司先生

(佛教大学教育学部教授／パネルシアター委員会委員長)



す」。きょうは、そんなお話をしてみたいと思います。  
大澤先生はレジメを追って諄々と豊山保育の根幹を説いてくださいました。

例えば、幼児は、人（親・保育士・教諭）によって自分を育てていく。「自ら育つものを育てようとする心」それが育ての心であり、それは明るい世界であり、温かい世界でもあると。「育つものと育てるものが互いの結びつきにおいて相楽しんでいる心である」。先生の言葉は聞く人の深奥に染み込んでいくようでした。

ギターを抱えて登壇した高橋先生は、はじめに「浄土宗の住職である古宇田亮順師の創案であるパネルシアターは、今年で43年目を迎えます。私は古宇田パネルをそのままお伝えすると共に、保育の中に活かせるパネル、芸術としての観賞用パネルなど、パネルの持つ様々な魅力をお伝えできればと思っています」と述べ、軽妙な話し方で笑いを誘いながら一気にご自分のペースに巻き込んでいきました。ギターを奏で、唄いながら軽快に動かしてパネルの世界に引き込んでいき、会場と一体になって楽しんだ90分でした。

# 「保育の環境デザインへのアプローチ」

## 富岡量秀先生

(大谷大学短期大学部幼児教育保育科准教授)



先生のご専門は建築デザイン。物的、人的、文化・社会的見地から、時間、空間の環境や保育現場との関係などを計算しながらデザインへのアプローチを考えるのだそうです。「園舎など施設の環境保育の環境デザインと言ってもアプローチはいろいろあります。きょうは、子どもの『居場所』づくりという視点から、お話ししたいと思います」。富岡先生は冒頭こう話されて

からパワーポイントで映像を追いながら説明してくださいました。

紹介された園舎は立川市の藤幼稚園はじめ数園。藤幼稚園は屋内と園庭との境界線がなく、まるでドーナツのように円形の園舎です。建築学会などからも優れた園環境を持つ園舎として表彰されています。

有名な建築家だから住みやすい・使いやすいとは限りません。あくまで「子どもが主役」でなければなりません。先生はそう力説して子ども『居場所』とは何か、について映像を見せながら語ってくださいました。

# 「子どもとのふれあいあそび〜リズムあそび〜」

## 松澤育子先生

(リズム・リトミック・音楽指導員)



松澤先生は開口一番、「何を導入するにしても『もう一度やってみよう』という気持ちを与えることが大切です」と言い、今回は「先生方みずからが楽しみ、ご自分の園で子どもたちとやってみよう、あるいは、苦手な音楽でも『これなら出来る』という気持ちを持って頂きたい」と考え、体を動かしながら学んで欲しいと思えるあそびを紹介したいと思えます」と述べて、タオルを使つての遊び、カスターネットでリズムを取りながら体を動かす楽しさを指導されました。

# 閉講式



「二日間、ご苦労さまでした。天候には恵まれませんでしたが、しっかりと学ばれたことでしよう。最後の講座の『遊び』も、

ずいぶん変化してきたんだなと感慨深く見ていました。技術的なことも大切ですが、この場で感じたことも園に持ち帰って役立たせてください」と、緑谷理事長の閉講の挨拶のあと、受講生を代表して吉岡朋香（よしおかともか）先生（岩切東光第二幼稚園・宮城県）に理事長から修了証が授与されました。

吉岡先生からは「講義のどれもが日常に重なり、大変勉強になりました。幼児期という一生のうちの大事な時期に携わる者としてこれからも頑張っていきたいと思えます」と謝辞を述べました。

「仏教保育の歌」を斉唱して二日間の幕を閉じました。



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、  
保育環境の未来を提案する。  
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ  
www.jakuetsu.co.jp



# 「第24回参議院議員選挙」推薦候補者の必勝を祈り 「当選祈願法要」を執行!!

平成 28 年 6 月 28 日 / 大本山増上寺・安国殿

6月28日、公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は大本山増上寺・安国殿において、当協会が推薦する候補者全員の必勝を願って「当選祈願法要」を執り行いました。お導師は樋口威道上人（日仏保・総務部長）が務められました。安国殿の名称は、徳川家康公の法名『安国院殿徳蓮社崇譽道和大居士』に由来しています。家康公は常勝將軍として知られ、逆風に強い運勢を持った人物でした。その安国殿において候補者の方々の必勝を祈願させて頂きました。候補者の方には緑谷理事長から推薦状と大宝札が手渡されました。参拝できなかった方には、候補者の選挙事務所宛にお送りしました。



# 祝 第24回参議院議員選挙 ご当選おめでとうございます

7月10日の投開票では、自民・公明の与党が過半数を超す大勝を収めました。公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）がご推薦した15名のうち11名が永田町に凱旋されました。

茲にご芳名を掲げ、謹んでお祝い申し上げます。併せて、子どもたちの明るい未来のために、「仏教保育の振興」に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

岡田 広（おかだ ひろし） 69歳 参院予算委筆頭理事、元内閣府副大臣 立命館大 茨城	中曽根弘文（なかそね ひろふみ） 70歳 党国会長、元党党紀委員長、党参院議員会長、外相、文相、慶大 群馬
片山さつき（かたやまさつき） 57歳 党総務副会長、元参院外交防衛委員長、 総務政務官、東大 さいたま市（比例）	山谷えり子（やまたに えりこ） 65歳 元国家公安委員長、拉致問題相、首相補佐官、衆院議員、聖心女子大 東京（比例）
大家敏志（おおいえ さとし） 48歳 参院財政金融委員長、元財務政務官、 県議、議員秘書、北九州大 福岡	末松信介（すえまつ しんすけ） 60歳 党幹事長代理、元党国会長、参院外交防衛委員長、財務政務官 関学大 兵庫
中川雅治（なかがわ まさはる） 69歳 党総務会長代理、元参院議運委員長、 党政調副会長、環境次官 東大 東京	園田修光（そのだ しゅうこう） 59歳 社会福祉法人理事長、元衆院議員、鹿児島県議、日大 鹿児島市（比例）
二之湯 智（のゆ さとし） 71歳 党府常任顧問、元総務副大臣、総務政務官、京都市議 慶大 京都	上野通子（うえの みちこ） 58歳 党政調副会長、党県副会長、元文部科学政務官、共立女子大 栃木
山崎正昭（やまさき まさあき） 74歳 参院議長、元党参院幹事長、官房副長官、県会議長、市議 日大 福井	※懇話会の方々は名前が太字。 氏名（敬称略）、年齢、現職、主な経歴、最終学歴、出身地

# 福井豊信先生 (享年 92 歳)

(浄土宗天川山寂光院明福寺第三十世・明福寺ルンビニー学園理事長、日仏保参務)

平成 28 年 7 月 19 日、日仏保参務・福井豊信先生が 92 歳のご長寿を全うし遷化されました。

福井先生は、昭和 33 年に日仏保事務局次長に就任。以来、事務局長、理事、副理事長、参務を歴任され、仏教保育の振興と団体運営に力を尽くしてこられました。その間、仏教保育研究会での研究をはじめ、保育関係の著書も数多く上梓されています。理論だけでなく保育現場における実践にも大きく貢献されました。先生は、38 年の長きにわたって仏教保育振

興に尽くされ、90 歳で遷化された日仏保元名誉会長の大谷光昭先生を深く敬愛しておられました。その大谷会長に「親鸞聖人のご旧跡を浄土宗の僧が復興したという伝記に感激し、各宗こそつて仏教保育に生涯をささげたいと思います」とお誓い

したと伺ったことがあります。そのお誓いどおり、福井先生は生涯を仏教保育に捧げてこられました。茲に、生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

公益社団法人 日本仏教保育協会  
理事長 緑谷一雄  
社員一同

## 訃報

# 村松康行先生 (学習院大学理学部化学科教授 享年 66 歳)

平成 28 年 7 月 2 日、かねてより入院・加療中の村松康行先生が薬石効なく逝去されました。享年 66 歳でした。

平成 24 年 1 月 17 日、大本山増上寺・三縁ホールで開催した当協会恒例の「第 41 回園長・副園長・主事研修会」/ 第 40 回主任・中堅研修会 (当時) で、松村先生に「放射性物質食品への影響を正しく理解するために」というテーマでご講演頂きました。ご記憶の方も多いと思います。

当時、福島で発生した原発事故は、『家畜や魚介類、野菜類に至る多くの食材は放射性物質への影響が懸念される』という心無い風評が飛

び交い、それらを食する恐れを増幅・拡大させ、地域の産業に塗炭の苦しみを与えました。そこで村松先生を講師に招き、放射性物質が食品に与える影響についてお話し頂いたのです。

先生のご専門は分析化学。微量元素やアイソトープなど地球環境における分野では世界的な研究者として知られていました。自然界における放射線についての先生のお話は具体的で分かり易く、風評の愚かさ・怖さを説いてくださいました。

惜しい人材の早世が悔やまれてなりません。茲に、生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

# 仏教保育振興国会議員懇話会会長 故・衆議院議員 鳩山 邦夫 先生

〈日仏保は供花贈呈〉



## 「お別れ会」

平成 28 年 7 月 12 日、東京都青山葬儀所において 6 月 21 日に永眠された鳩山邦夫先生 (本紙前号 No. 627 に訃報掲載) のお別れ会が行われました。

実行委員長の内閣総理大臣・安倍晋三氏、衆議院議長・大島理森氏をはじめとする政・財界や関係団体からの参加者で長蛇の列が続いていました。当協会からはご霊前に供花をお贈りし、当日は古屋吉雄常任理事らが参列して故人を偲びました。鳩山邦夫先生、長年にわたって仏教保育振興にご尽力いただき、衷心より感謝申し上げます。安らかに眠りください。

合掌





### 事務局日誌

- 7 / 1 こどものくに「ひまわり版」編集会議
- 7 / 4 「仏カリ」「仏教保育」編集会議
- 事務局会議
- 7 / 5 こどものくに「たんぼ版」編集会議
- 7 / 21 ~ 22 「第84回夏期仏教保育講習会」  
(大本山増上寺・光摂殿)
- 7 / 30 ~ 31 「第34回全国仏教保育福島大会」  
(福島県郡山市・ホテルハマツ)

## 「気がかりな話題」

◆数年前から、「孤食」や貧困家庭の子どもたちに無料や低価格で食事を提供する「子ども食堂」が増え始めています。その多くは地域のボランティアによって開かれています。食材や活動費は寄付などで賄っているようです。東京都内ではおよそ100カ所が「子ども食堂ネットワーク」に参加しており、支援に乗り出す自治体も出てきましたが、費用や対象となる子どもたちへの周知などの課題も少なくないというのが現状のようです。対象者を決めないで子どもの「居場所」として解放しているところも出てきています。貧困家庭の子らへの楽しい「居場所」の「輪」が広がることを願わずにはいられません。

◆近年保育者の資質向上が遡上されていますが、それよりも深刻な問題は「保育者不足」。保育の現場では「質」の云々よりも「必要人数を確保するのが容易ではない」と嘆く声も多く聞かれます。そこで、保育者が育つ環境を整えることが改めて求められています。保育者の資質として「人間性・社会性・専門性」はもとより、保育指針では倫理観や人間性を基盤とし、教育要領には教師の専門性が謳われています。これからの新たな課題としては、職業人としての倫理観や共感性、協調性など高めることが期待されています。これらは研修だけで培われるものではなく、園内環境の見直しが大切だということでしょう。

## 編集後記

■雲一つない、天空の青、それが7月のイメージでしたが、今年は少し違うようです。梅雨明けを告げる7月中・下旬でも小雨が続く、台風の接近も報じられています。「お泊り保育」や「夕涼み会」など、園行事を楽しみにしている子どもたちには気がかりなお天気模様のようなです。■今夏の長雨は24節氣の一つで梅雨明けを知らず『大暑』の7月22日も「降りみ降らずみ」の雨に見舞われました。前日の21日から、大本山増上寺の光摂殿で恒例の「仏教保育夏期講習会」が開かれましたが、その日も霧雨が舞い、外気は涼しく会場の冷房が時には寒く感じるほどでした。しかし、全国から集った140余名の教諭・保育士たちは元気に講習に臨み、実技では汗をぬぐいながら「所狭し」と体を動かして研修に励んでいました。二日間でしたが、大いに講習の実を上げたようです。■増上寺での講習会に次いで、7月30・31日は二年に一度の「第34回全国仏教保育福島大会」が郡山市で開催されました。「合掌の姿に花は咲く」被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育」の大会テーマに沿って仏教保育に更なる磨きをかけたことでしょう。(O・I)

公益社団法人 日本仏教保育協会  
〒105-0011東京都港区芝公園4-7-4  
ホームページ <http://www.buppo.com/>  
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519  
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満  
毎月1回1日発行(1部315円)



### 仏教保育綱領

- 慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
- 仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
- 正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

## 紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2x26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文  
お問い合わせ  
すずき出版